

イ 落葉樹と常緑樹をバランスよく配置し、四季の変化に富んだ美しい空間を創出する

落葉樹と常緑樹をバランスよく配置し、四季の変化に富んだ美しい空間を創出している。



常緑樹だけでなく落葉樹も併せて配植することにより、季節感のある空間を演出することができる。



ウ 既存樹木を活用する

地域の財産としての緑を継承するため、大径木や長年地域に親しまれてきた樹木を保全・活用している。

エ 樹高の高い木を植栽するなど、ボリューム感のある緑の空間を創出する

樹高の高い樹木を植栽することにより、竣工当初から緑量を感じられるほか、建築物の周辺への圧迫感を軽減する効果が期待できる。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

オ 植物の生育に適した植栽基盤の確保

(ア) 雨水の供給

高木の根元を地被植栽で広く覆うことは、踏圧の防止、雨水の供給など、植物の生育上効果があるほか、開放的な景観形成にも寄与する。



高木の根元について、踏圧防止と舗装材の見栄えを優先する結果、雨水の供給上効果が薄くなる場合がある。



(イ) 人工地盤上の植栽

人工地盤上でも、樹種を選択、植栽配置等の工夫により開放的で落ち着いた空間を形成している。



人工地盤上でも緑量を感じさせる植栽が可能である。



人工地盤上の植栽環境が適切でなく、植栽の生育が不良となっている。土壌環境などに配慮することにより、植物の健全な育成を図ることが重要である。

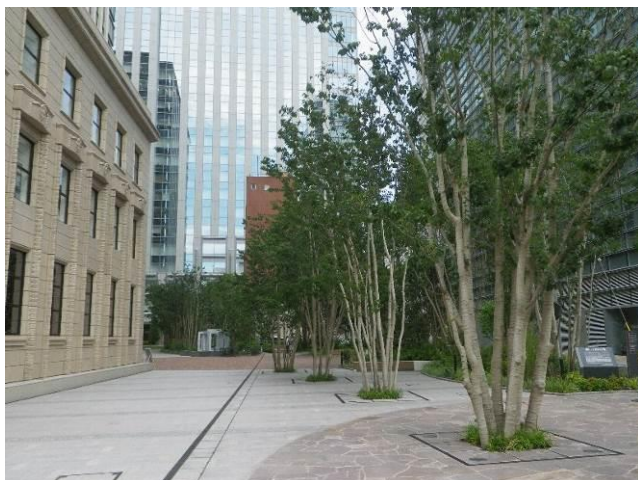


植栽が枯れている。

凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(ウ) 植栽間隔

樹木の将来樹形を考慮した適切な間隔で高木を植栽し、緑量のある空間を創出している。



街路樹と連携した公開空地の高木植栽であるが、両者の間隔が狭すぎるため、枝が競合している。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

### コラム：「造園の魅力が引き出された美しい空間」

都心では、緑地が都市に潤いを与え、都市が緑地のにぎわいや造形の美しさを与えています。都市と緑地を一体的に考えることによって、空間の効率的・効果的な活用が可能となります。このように、都市において緑地のデザインを行う際は、都市計画やランドスケープとの連携を図ることが大切です。

また、古くから大きな建物には、庭園が設けられていました。これらの庭園は、生活の中で様々な役割があり、歴史的・文化的にも重要で、人間の生活の中で自然を体現できる空間として貴重でした。庭園を通じて、多くの方の理想とする緑地空間は、四季が感じられ、自然に配慮した心地よい安らぎを与えてくれる空間と考えられています。このような空間には、奥に高木、手前に中木や低木を配置し、緑の奥行を持たせ、景観に配慮したメリハリのある配植を行うなど、多くの造園技法（シンボル、アイストップ、抜け、一段の塊、寄せ、厚み、エッジ等）が用いられているのです。

今度、機会があれば緑地空間を観察してみたいかですか。「あっ」と思わせる匠の技が発見できるかもしれません。



撮影：大手町ビル